

リカレント教育におけるバックオフィス DX 推進プログラム

—女性のためのオフィスワーク DX 推進プログラム—

三好 きよみ¹, 中村 准子², 廣田 奈穂美², 浦山 昌志³, 鈴木 伸学³

(受付：2023年8月4日 受理：2023年8月4日)

1 はじめに

デジタル等成長分野への就職・転職といったキャリアアップ・キャリアチェンジに向けて、就職に必要なリテラシーレベル、就業者のキャリアアップを目的としたリスクリングの取り組みとして、文部科学省による「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」が実施された¹⁾。筑波大学働く人への心理支援開発センター²⁾では、前年度³⁾につづいて、文部科学省委託事業として、「女性のためのオフィスワーク DX 推進プログラム」を開発、実施した。本プログラムは、「バックオフィス DX 推進プログラム」「バックオフィス・スキル UP プログラム」「女性のためのライフキャリア心理学プログラム」「女性のための就職支援プログラム」の4つのサブプログラムで構成されている。併せて、受講生の受講継続や就労までをトータルに支援する「寄り添いサポートシステム」によって統合的なサポート体制を構築した。本稿では、サブプログラムの1つである「バックオフィス DX 推進プログラム」について、その取り組みと成果について報告する。

2 女性のためのオフィスワーク DX 推進プログラム

2.1 プログラム全体の概要

本プログラムの目的は、以下の3点である。失業者や転職を希望する受講生に対し、①企業のバックオフィスのDXを支える女性人材を育成すること、②広くライフキャ

リアに関わる態度・知識を高めること、③これらを醸成中の受講生に対して直接的な就職・転職支援を行うこと。なお、ライフキャリアとは、仕事をはじめとして、私生活も含めた生活全般のキャリアのことである。

本プログラムは、以下の12の力の習得を目指すプログラムを設計した。①デジタル基礎力 ②デジタル・リテラシー力 ③論理的思考力 ④業務改善に資する力 ⑤チームで働く力 ⑥主体的な行動と働きかけ力 ⑦学び考え抜く力 ⑧自らのキャリアを構築する力 ⑨組織の中で自分を活かす力 ⑩自分を知る力（自己理解） ⑪仕事を観る・見つける力（仕事理解） ⑫未来を描く力（キャリアプランニング）。

目指す職種としては、一般事務職（システム部門、総務、人事、営業アシスタント、秘書、広報）などを想定している。バックオフィスのスペシャリストとして、ITを駆使しながら企業で活躍できる人材になることが目標である。

プログラム全体の日程は、2022年10月4日（開講式）から2022年12月23日（修了式）の3か月間全240時間である。

2.2 対象者

本プログラムの対象者は、失業中もしくは転職を希望している女性である。大学卒業後希望する就職が決まらない方、育児や介護で長く就労から離れていて復職を考えている方、将来の仕事を考え直したい方などを対象としている。8月上旬から9月にかけて募集し、書類審査、筆記テスト、グループ面談を行い、28名を選定した。

3 バックオフィス DX 推進プログラム

3.1 プログラムの概要

DX関連講座をはじめとして、Office製品の効率的・効果的な使い方などのITリテラシー、コンピューターサイ

¹ 東京都立産業技術大学院大学

² 筑波大学 働く人への心理支援開発研究センター

³ 株式会社 IP イノベーションズ

エンス入門、セキュリティ基礎、AIリテラシー、RPA入門といったITに関連する科目などを中心に構成されている (Table 1)。最後には、DX 総合演習として、グループでの発表を行う。なお、全ての科目において、講義を中心に、適宜グループワークを実施する。これらは、目指す12の力のうち、①デジタル基礎力 ②デジタル・リテラシー力 ③論理的思考力 ④業務改善に資する力に該当する。

Table 1 バックオフィス DX 推進プログラム各科目の概要

科目名	時間	内容
DX 関連講座	18	オンライン会議システムの操作方法、DX 解説と事例紹介、ファシリテーション基礎の解説、UX デザイン入門
IT リテラシー	39	オフィス製品(ワード、エクセル、パワーポイント)の操作方法、実践的な演習を通して資格取得を目指す
グループウェア	3	発信力、他者理解、コミュニケーション
ロジカルシンキング	3	主体性、働きかけ力、自律的に働き、働きかける
段取り力	3	学ぶ力、計画力、学び方、課題発見力、リフレクション、問題発見、プロジェクト管理
コンピューターサイエンス入門	12	コンピューターの仕組みや原理といった基本と、ネットワーク通信を身近な事例で学習
AI リテラシー	6	AI とは何か、事例から学習
セキュリティ基礎	6	セキュリティとは何か、リスクの分類と対策について、事例から学習
業務改善入門	6	業務改善のための視点を学び、改善のためのアプローチを知る。業務改善の主要ステップを体験し、着眼点などを養う
RPA 入門	6	RPA の基礎的な仕組みを学習し、得られる効果、メリット、デメリットについて学習
DX 総合演習	18	学習した内容を基にケースにおける DX 的解決方法をグループで検討し発表

3.2 学習状況

講師からのコメントの一部を紹介する。

IT リテラシー：Excel は、業務で使用する際の事例やコツまで、深く掘り下げて紹介した。それにより、既知の内容に関する理解が深まり、そこに新しい知識が加わって MOS 試験を受験できるレベルに近づいた。PowerPoint は、学習した内容を自分なりに表現し、他者の資料を見ることで、今後に向けてのイメージをつかんでいた。

コンピューターサイエンス入門：演習では、一般的な

ファイル操作と違い、初めて知ることも多かったようで興味深く学習していた。

AI リテラシー：AI による社会の変化についてのグループディスカッションでは、様々な意見やアイデアが出ており、受講生間で刺激を受けている様子がみられた。

セキュリティ基礎：組織内で意識すべき行動に注目した内容の紹介によって、身近に感じる部分も多いと思われ、グループディスカッションでは活発な意見交換がみられた。

業務改善入門：身近なワークを用いて、プロセスを書き出し、問題の事象や原因を検討した。多様な背景の受講生同士で意見がぶつかることもあったが、最終的には、グループとして納得できる解決案が複数出されていた。

DX 総合演習：これまで学習した知識・スキルを基に、他のサブプログラムで学んだ知見も取り入れながら、グループで解決提案を作成し発表した。演習では、議論の進め方やまとめ方、他者への効果的な伝え方、チームビルディングやファシリテーションなど、実践的な学びが深まった様子がみられた。

以上のように、受講生は、各科目の学習と演習を通して、バックオフィス DX 推進プログラムで目標とした、①デジタル基礎力 ②デジタル・リテラシー力 ③論理的思考力 ④業務改善に資する力を身に付けていったことがわかる。

4 おわりに

本稿では、「女性のためのオフィスワーク DX 推進プログラム」のサブプログラムの1つである「バックオフィス DX 推進プログラム」の概要、及び受講生の学習状況について報告した。受講生は、目標とした力を習得している様子であった。なお、プログラム全体の目標であった就職・就業率は、翌年4月時点で7割に達した。今後は、科目ごとの理解度等についても分析を進め、次回のプログラムに活かしたい。

参考文献

- [1] 文部科学省. 「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」. 2022
- [2] 筑波大学：働く人への心理支援開発研究センター、<https://www.human.tsukuba.ac.jp/counseling/t-one-lab/>
- [3] 三好きよみ他. 就職支援のためのリカレント教育における IT 能力開発プログラム. 工学教育, 71 (4), 2023, 118-123.